

海外派遣留学プログラム 留学中報告書

所属：国際教養学部

学年：2 年

留学先大学：RMIT 大学

現在の学期：2 学期

時間割：

曜日	履修科目名・時間等
月	
火	Strategic Urban Planning 11:30~13:00 15:30~17:00
水	Regional Planning Project 10:30~13:00
木	
金	Entrepreneurship and global challenges 12:30~15
土・日	

履修科目や近況について

履修科目は自分が今回の留学理由としての学問分野の都市・地域計画を基本に行うのと、個人的に興味のある起業の授業を取りました。他に Planning Theory という都市計画の理論を学ぶ授業があったのですが、私の受けたいと思っていた都市計画の授業と時間が被ってしまい履修上不可能になってしまったので、今回はこちらの授業は断念しました。実際に行ってみなければ授業が被っているかどうかはわからなかったもので、多めに候補を考えておいてよかったと思います。また、授業が始まる前に履修登録ができる千葉大学という学生ポータルのようなものがあるのですが、事前にきちんと説明されておらず、割り当ててもらえるものと、自分で選択しないと割り当てられないものがあり、事前に知らなければ同じ授業内容でも希望通りの時間に授業が受けられない可能性があります。幸い私はメルボルンの現地にいる他大学の友達がいたので、履修登録の気を付けた方がいいことを聞けましたが、そうでなかった他の留学生の友達は割り当てられていなかったことで、危なく授業を登録し忘れていて単位をもらえない状況になっていました。ここは交換留学生ならではの注意事項だと思いますので、自分が千葉大学に入学したときの履修登録を思い出しヒヤヒヤしました。できるのであれば、English House に足を頻繁に運んだ、CISG や J-PAC 生のチューターなどの活動に参加したりするなどの留学生と関わり、自分の生きたい海外の地域の学生とも仲良くしておく(長期派遣では千葉大学と協定校の学生が来ているので、自分が行く大学と同じ大学の学生と出会える可能性がある)、最初の留学生活に戸惑いが少なく過ごせると思います。

Strategic Urban Planning は主に都市部の地域開発についてメルボルンの地域を例に

学び、その問題点と解決策について探っていきます。RMIT 大学の授業は、どの学年の授業も基本的に受けたいと思えば受けられるという対象学年がない仕組みになっているので、様々な学年の学生が履修しています。※ただしこの授業は学部1年生が履修している人が多い印象でした。

授業は火曜日に2回あり lecture と tutorial に分かれています。前者は講義タイプの授業で教授が基本的に話し、学生が教授の質問に答えたり、自分で気になったところは講義中に質問したりする形です。この時は基本的に全員参加なのですが、出席が取られるわけではないので、全員がいるのかと言われると怪しい人数ではあります。ただ Lecture に参加する生徒は熱心な生徒が多く、常に教授と学生の積極的なコミュニケーションがとられています。後者では、少人数クラスに分かれてディスカッションをしながら能動的に活動します。日本の大学に比べて、一つの単位に受動的な場面、能動的な場面を分けて行っているところに違いが見られて面白いです。Lecture の中で触れられた部分を基に、具体的に話を展開していくことが多く、そこでクラス内で話し合いをします。とにかく発言をする機会が多いので、ぼやっとしている暇はありません。集中して他学生の話していることに耳を傾け、自分の意見を話さなければなりません。特に、現地の学生と一緒に活動をするので、馴染みのないオーギー+高速イングリッシュについていくのは大変ですが、耳と脳が鍛えられます。火曜日は午後5時まで授業があるので、終わった時はクタクタになりながら帰ることが今のところは多いです。評価方法は、中間課題や最終課題など、レポートがメインで国際教養学部の形と似ています。ただ、中間レポートで1200wordあるので、立て続けに課題があると謀殺される可能性が高いので、計画的に進めようと思います。

Regional Planning Project は二つの授業が連続して行われます。最初に lecture を聞いた後、tutorial のクラスの場所に移動して授業を受ける形です。この授業では、Strategic Urban Planning とは逆の主に郊外・田舎の問題点とその解決策について学ぶ授業です。もともと都市計画に興味があって、その逆の方向性も知ってみたいという動機だったのですが、個人的にはこちらの授業の方がよりグループで活動することが多く授業を受けていて楽しいです。5週目には、4人班の中でヴィクトリア州(メルボルンが位置しているオーストラリアの州)の中で一つ地域を決めてその地域の問題とどうしてその問題が重要なのかという観点でプレゼンを行います。5~7分の内容ですが、自分が担当するパートをきちんと話せるようにしておかなければならないので、早めに準備を始めようと思っています。評価方法はグループプレゼン、グループレポート、個人レポートなどでテストではなく、プレゼンやレポートによる評価になります。グループレポートなのもあって、最初のレポート課題が2500wordのグループレポートなので、その前のグループプレゼンでちゃんと準備しておいた方が良さそうです。

Entrepreneurship and Global Challenges の授業は tutorial が対面で金曜日にあり、lecture がオンラインで各自行うという流れになっています。この授業はこの3つの中で一番面白い授業だと感じています。グローバルに起業をするためにはどうすればいいのか、また事業を世界的に拡大していくために必要な情報は何かというのを実践的に学んでいます。5週目に提出が控えている課題を例に挙げると、オーストラリアで実際に起業されたばかりの起業がいくつか与えられて、その一つの起業を選んだあと、

その企業をグローバル展開していく際にどの国が良いのか2か国選び、その理由、根拠をもとに 1500word で論じなさい、というものです。この授業の徹底しているところは、4人グループを組ませたあと、グループ内で同じ企業を選択させるのですが、国と地域が全員と被らないように類似地域マップ(12個ほどに分かれていた)が渡され、その中から一人2地域選んだ後に国を決めるようにして、誰とも被らないような設定にしているところです。実に実践的でマネができない、自分から情報を得ていけないといけないという点が非常にそそられます。また tutorial で講義をしてくれる教授は実際に3社の起業を既に行っている方なので話していることに説得力があり、聞いていて吸い込まれるような授業をしてくれます。それに追加して学生の行動や発言に非常に注視しており、学生の発言に合わせて授業を柔軟に変えていく姿が美しいです。例えば私が日本人だと自己紹介でわかったので、起業をする際に日本語の「生きがい」という言葉を用い、利潤の追求のみに囚われない起業をすることの大切さなどについて話してくださいました。またグループのメンバーも親切で話しやすい人が多いため、学びやすい環境です。この授業の評価方法も個人 and グループレポートとなっているので、課題が集積しないよう管理するよう努めたいと思います。(特に9月29日は3教科すべての締め切りがある。)

クラブ活動などは、最近月曜日のダンスクラブに行き始めて、そのあと図書館で勉強しています。休日に家を出るのは多少億劫ですが土日が休みなので、積極的に外に出て平日の感覚を取り戻して生活リズムをリセットするようにしています。

生活面では、初めての一人暮らしを始めたことで、生活力がついた気がします。私の場合、寮にもとから住んでいたわけではなく、授業が始まる2週間(留学生向けオリエンテーションが始まる1週間)前から滞在して、自分で内見してシェアハウスを見つけました。それまではホステルに泊まり、物件探しをしながらホステルの人と生活していました。ホステルという宿泊タイプは初めてだったので、緊張しましたがアットホームな環境であったためすぐになじむことができ、ホステルにいる人と情報交換を行うこともできて、とても楽しかったです。私が寮生活にしなかった理由として、寮の物件が狭いのにもかかわらず値段が高かったことです。メルボルンは人口流入により地価が上がっているのに加え、RMIT 大学が主要経済地区(CBD)のど真ん中にあるために、月25万円の賃貸になっていて、自分の計画していた留学費用では破綻することが分かったので、自分で探しました。またシェアハウスにも、自分のプライベートルームがある場合と、ルーム自体をシェアする物があり、寮の一番安いものはシェアルームでした。誰がルームメイトになるのかわからないのは正直不安だったというのもあり、自分で居心地のいい場所を実際に見たいという思いもあって直接見に行きました。使用したサイトは Real Estate, Flat mate, Facebook, Gumtree など、最終的に80歳ぐらいのイギリス人のおじいちゃん(家主)と、日本人27歳女性と3人で一軒家に住んでいます。自分の部屋もしっかりとあり、中心地区から電車で30分ほど離れた場所なので、家自体が広く、料理をする場所もしっかりあり、庭までついているという好条件で月12万円程度と抑えられたので、非常に満足しています。初めての一人暮らしやシェアハウスの場合、英語シャワーを浴びる機会!と捉えるのももちろんです

が、大前提として家は安全地帯、安心できる場所ということを忘れずに選んだほうがいいと思います。

授業がない日は予習をしたり、留学生オリエンテーションで仲良くなった友達と遊びに行ったりしています。日本よりも予定が決まるのが突然なので、今日予定ある？ ないなら遊ぼう！ のノリが個人的には心地良いです。日本では友達であっても前々からアポイントを取る習慣があるので、日本でもできれば取り入れたいです。

また、飛行機に持っていくことのできる荷物量の関係で、服はあまり持っていけなかったのも、セカンダリーショップで服を調達しました。メルボルンでは労働者の賃金が高い分すべてのものが高いのですが、友達がおすすめしてくれた Savers というお店はとても安く、上手くいけばとてもいい買い物ができるのでお勧めです。この前はトップスを 7 着ほど買って 61 ドルに抑えることができ、大変満足のいく買い物できました。

ハウスメイトの女性の方はワーキングホリデービザで来ていて仕事をしていることが多く、あまり顔を合わせないのですが、イギリス人のおじいちゃんとは夜ご飯の時に一緒になってお話をしたり、近くの公園で散歩しながらお話ししたりします。イギリス訛りは聞き取りづらくて最初は大変だったのですが、慣れると話していて楽しいし、おじいちゃんからすると話し相手が増えるということで win-win の関係性で過ごさせてもらっています。

もう少し落ち着いてきたら、ホステルの時に会った子たちに声をかけて一緒に夜ご飯をつくれたら良いなと思っています。

また 9 月の初めの週には家族が 1 週間遊びにくるので (Mid Semester break があるのでそれに合わせてきてくれます)、なるべく宿題を終わらせておきたいと思います。

↓ 行きの飛行機の機内食



留学生オリエンテーション中の様子↓
様々な国から留学生が来ていることが
分かりました。ここで交流をして友達が
できました！



↓泊まったホステルの部屋の様子（この部屋は女性 6 人部屋でした。調理場や談話室は別にあります！）



↑ある日の夜ご飯。自分で作ったもので体が構成されるので、栄養バランスも考えて作っています



↑ **授業風景** こちらは Entrepreneurship and Global Challenges の授業

←1 週間授業頑張った記念に無印良品で買ったカレーを使った夜ご飯



←メルボルンの中心経済地域
(通称 CBD)。イギリス風の街
並みが残りつつ、ビル群もあ
ります。郊外では基本的に低
い階層の家が多いですが、
CBD ではビルも多く見られま
す。



↑家主のおじいさんと散歩へ行
ったときにカフェで食べたフラ
ペチーノと生チョコのラズベリ
ー味。フラペチーノが苦くない
ことをここで初めて知りました。



↑友達の家で一緒に作ったリゾットとオニオンスープ。友達は留学生オリエンテーションの時にできた友達で一人はエストニア人、もう一人はスイス人的人了。基本的に英語で話して、たまにそれぞれの言語を話して真似したり、言葉を覚えたりします。私は日本でフランス語とドイツ語の授業を取っていて、授業が終わった後も Duolingo で学習しているのですが、そのドイツ語やフランス語が新しい人と話すときに話すきっかけになることもあります！



↑ Regional Planning Project の授業終わりに、
授業内の友達と一緒にいったタイ料理レストラン。
トムヤムクンシーフード盛りです。おいしかったです。